（様式１）

申請年月日　　　 年 月 日

　福島県知事　様

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（〒　　　－　　　　）

住　　所

名称および代表者名(署名または記名押印）

電話番号

「持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画」（新規認定・更新認定・変更）申請書

 持続性の高い農業生産方式の導入の促進に関する法律第４条第１項及び福島県持続性の高い農業生産方式導入計画認定要領第５－1（更新にあっては５－２）に基づき、導入計画の認定または変更を受けたいので、関係書類を添えて申請します。

持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画

（目標　　　　　　年度）※1

１　持続性の高い農業生産方式の導入に関する計画申請者（該当する場合は、□に✔を記入）

[ ]  認定農業者である

[ ]  更新又は変更申請者である　（既認定番号：　　　　　　　　　　　　　　 　　　　　　　　）

[ ]  家族内で別の者が既に認定を受けている

[ ]  現在（申請時）他品目で既に認定を受けている

[ ]  集団または組織ぐるみで計画に取り組む（組織名：　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　）

２ 持続性の高い農業生産方式の導入に関する目標

（１）作物別の生産方式導入計画の概要

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 作物名（作型）※２（本ぽでの栽培期間） | 導入する作物のほ場がある市町村※３ | 面積※４ |  |  |  |
| 前計画の目標 | 現　状 | 目　標 |
| （　　月　　旬～　　月　　旬） |  | 導入面積※５ | ａ | ａ | ａ |
| 全作付面積※５ | ａ | ａ | ａ |
| （　　月　　旬～　　月　　旬） |  | 導入面積 | ａ | ａ | ａ |
| 全作付面積 | ａ | ａ | ａ |
| （　　月　　旬～　　月　　旬） |  | 導入面積 | ａ | ａ | ａ |
| 全作付面積 | ａ | ａ | ａ |

※１　導入計画の目標年は原則５年

※２　作物名（作型）は県指針より転記すること。なお、水稲は品種名も記載すること。

※３　ほ場の面積がもっとも多い市町村名を記載する（ほ場番地等は不要）。

※４　持続性の高い農業生産方式を導入しようとする作物・作型について記入。

※５　上段には生産方式導入面積を、下段には当該作物の全作付面積を記入。なお、上段がおおむね５割を超える面積であること。同一ほ場で年に複数回作付する場合は、のべ作付面積を記入

（つづき）　該当する技術項目欄に記入または□に✔を記入

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 作物名：　　　　　　　　　　　　　 | 前計画の目標(更新者のみ) | 現　状 | 目　標 |
| 収　量 | kg/10a | kg/10 ※６ | kg/10a |
| 当該作物の所得(販売額から経費を差し引いた額) | 千円 | 千円 ※６ | 千円 |
| 有機質資材施用技術 | 施用量（または推定すき込み量） | t/10a | t/10a | t/10a |
|  | Ｃ/Ｎ比（炭素率）が規定値（おおむね10～150）の範囲内である |[ ] [ ] [ ]
|  | 1 たい肥等施用 |[ ] [ ] [ ]
|  | 2 緑肥作物(ｿﾙｺﾞｰ･麦類･ﾚﾝｹﾞ等)のすき込み |[ ] [ ] [ ]
|  | 3 稲わら等のすき込み |[ ] [ ] [ ]
| 化学肥料低減技術 | 施肥全窒素量 | kgN/10a | kgN/10a | kgN/10a |
|  | （うち化学合成窒素量） | ( kgN/10a) | ( kgN/10a) | ( kgN/10a) |
|  | 1 局所施肥(溝施肥･植穴施肥･鉢施肥他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 2 肥効調節型肥料の施用(被覆肥料他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 3 有機質肥料(菜種油粕・魚粕他) |[ ] [ ] [ ]
| 化学農薬低減技術 | 化学農薬使用回数(有効成分の延べ回数) | 回 | 回 | 回 |
|  | 1 温湯種子消毒 |[ ] [ ] [ ]
|  | 2 機械除草(中耕･土入れ･雑草刈払機利用他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 3 除草用動物(ｱｲｶﾞﾓ･ｺｲ･ﾌﾅ･ｶﾌﾞﾄｴﾋﾞ他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 4 生物農薬(農薬取締法の天敵･ﾊﾞﾝｶｰ植物) |[ ] [ ] [ ]
|  | 5 対抗植物(ﾏﾘｰｺﾞｰﾙﾄﾞ･ｴﾝﾊﾞｸ･ｷﾞﾆｱｸﾞﾗｽ他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 6 抵抗性品種・台木利用 |[ ] [ ] [ ]
|  | 7 天然物質由来農薬利用技術 |[ ] [ ] [ ]
|  | 8 土壌還元消毒 |[ ] [ ] [ ]
|  | 9 熱利用土壌消毒(熱水･蒸気･太陽熱消毒) |[ ] [ ] [ ]
|  | 10 光利用(ｼﾙﾊﾞｰﾏﾙﾁ･ﾃｰﾌﾟ･有色粘着板他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 11 被覆栽培(ﾄﾝﾈﾙ･べたがけ･雨よけ･ﾈｯﾄ被覆他) |[ ] [ ] [ ]
|  | 12 フェロモン剤(農薬取締法のﾌｪﾛﾓﾝ剤) |[ ] [ ] [ ]
|  | 13 マルチ栽培(草生栽培･稲わら･ﾌｨﾙﾑ･紙被覆他) |[ ] [ ] [ ]

※６　収量と所得の現状については、原則、過去５年平均を記入する

※以下の（２）と（３）は生産部会等統一された栽培体系による集団で取り組む場合は代表者のみの記載とします。なお、栽培暦や防除暦等に同様の記載がある場合は添付することで省略可能です。

（２）化学窒素肥料低減技術の目標内容（１作期10a当たりで記入）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 肥料名（NPK成分比） | 局所※1 | 肥効※1 | 有機※1 | 施肥量 (kg/10a) | 全窒素量(kgN/10a) |  |
|  |  |  |  |  |  | うち化学窒素量(kgN/10a) |
| 土壌改良 |  | ― |  | ― | ― |
|  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |
| 基　肥 |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  | 小　　計 | ① | ② | ③ |
| 追　肥 |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  |  |[ ] [ ] [ ]   |  |  |
|  | 小　　計 | ④ | ⑤ | ⑥ |
| 　　　合　　計 | ①+④ | ②+⑤ | ③+⑥ |

1. 「局所(局所施肥肥料)」、「肥効(肥効調節型肥料)」、「有機(有機質肥料)」の省令技術に該当する肥料の□に✔を記入

（３）化学合成農薬低減技術の目標内容（１作期10a当たりで記入）

|  |  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 農　薬　名※２ | 生物※1 | フェ※1 | 天然※1 | 防除対象 | 化学農薬有効成分数A※3 | 使用回数B(回/作期)※4 | 総使用回数A×B |
|  |  |  |  | 虫 | 菌 | 草 |  |  |  |
| 1 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 2 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 3 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 4 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 5 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 6 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 7 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 8 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 9 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
| 10 |  |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]   |  |  |
|   | 合　計 | － |  |  |

1. 「生物（生物農薬）」、「フェ（フェロモン剤）」、「天然（天然物質由来農薬）」の省令技術に該当する農薬欄と防除対象欄は、□に✔を記入
2. 育苗中等に使用する農薬であって本ぽでの防除効果を期待して施用される農薬は使用回数に含む
3. 化学農薬使用回数に含めない農薬：「有機農産物の日本農林規格別表２に掲げる農薬」、「特別栽培農産物に係る表示ガイドラインで定義されている削減対象農薬以外の農薬」、「植物成長調整剤」、「展着剤」
4. 農薬使用回数：当該作物の定植後（移植後）から収穫まで（果樹等は前年収穫後から本年収穫終了後まで）の期間の延べ有効成分数

（４）前導入計画の目標に対する達成状況報告（更新者のみ記入）

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | 生産方式導入面積 | 収量確保 | 農業所得 | 有機質資材施用 | 化学肥料低減 | 化学農薬低減 |
|  |  |  |  | 技術導入 | 施用量 | 技術導入 | ２割低減 | 技術導入 | ２割低減 |
| 達成状況 |[ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ] [ ]

* ２の(１)を参考に目標達成の場合は欄内□に✔を記入し、未達成項目がある場合は下記の(５)に原因と改善策を記入してください。なお、本欄をもって、実施状況報告書（様式12-1）の代わりとする。

（５）その他（目標達成の考え方等）

|  |
| --- |
|  |

1. 更新前計画が未達成の場合は、その原因と改善策を含め記入。（必要に応じ農林事務所等関係機関の意見を踏まえ記入する）
2. 現状収量や目標収量が地域の標準や導入指針に示した目標収量と極端にかけ離れている場合や、現状　より大幅に向上させる場合は、その理由や達成に向けた考え方を記載
3. 農業改良資金の償還期間の延長を希望する場合は、導入機械、資金計画等を記入すること。

３ 「福島県環境と共生する農業」推進マークの申請

* マークを使用する。

※「福島県環境と共生する農業」推進マーク使用規程に基づき、エコファーマーＰＲマーク、エコ農産物ＰＲマークの使用を希望する場合は上記□に✔を記入。

［添付資料］

１　土壌診断結果

　　持続性の高い農業生産方式を導入する作物を栽培するほ場の土壌診断結果

|  |  |
| --- | --- |
| 作目 | 分　析　項　目 |
| 水稲（飼料用米等含） | （必須項目） | ｐＨ、ＣＥＣ（陽イオン交換容量）または有機物（腐植） |
| （選択項目） | 可給態窒素、可給態リン酸、交換性塩基 |
| 畑作物、野菜、果樹、花き | （必須項目） | ｐＨ、ＥＣ、ＣＥＣ（陽イオン交換容量）または有機物（腐植） |
| （選択項目） | 硝酸態窒素、可給態窒素、可給態リン酸、交換性塩基 |

２　栽培暦等（該当者のみ）

導入計画の「２（２）化学肥料低減技術の目標内容」または、「２（３）化学農薬低減技術の目標内容」を省略する場合、化学窒素肥料と化学合成農薬の成分数がわかる栽培暦等を添付してください。